

綱吉の政治と元禄文化

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

綱吉の時代、政治と文化はどのように変わったろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 綱吉の政治

学問を重んじる政治

とくがわつなよし
徳川綱吉

5代将軍。学問を重んじる政治を行った。

しょうらいあわれみのれい
生類憐みの令

犬をはじめ、生き物の殺生を禁じた法令。

あらいはくせき
新井白石

綱吉の死後、政治を改めた儒学者。

戦乱のない世の中が続き、幕府は武力でおさえつける政治から、学問や礼儀で秩序を保つ政治へと方針を変えた。5代将軍の**徳川綱吉**は、儒学のなかでも主従や親子などの上下の秩序を重んじる**朱子学**を学ぶことをすすめた。また、犬をはじめ生き物の殺生を禁じる**生類憐みの令**を出したが、厳しすぎて人々を苦しめた。綱吉は、孔子をまつる湯島聖堂も建てて学問をすすめた。

綱吉のころ、鉱山からとれる金・銀が減ったうえ、寺社の建築などで出費もふえ、幕府の財政は苦しくなった。幕府は貨幣にふくまれる金の割合を減らして発行量をふやしたが、物価が上がって人々の生活は苦しくなった。綱吉の死後、儒学者の**新井白石**は貨幣の質をもとにもどし、長崎貿易を制限して金・銀が海外へ流れ出るのをおさえた(正徳の治)。

2 元禄文化

上方の町人の文化

いはらさいかく
井原西鶴

町人の生活をえがいた浮世草子の作者。

ちかまつもんざえもん
近松門左衛門

人形浄瑠璃の脚本を書いた作者。

まつおばしょう
松尾芭蕉

俳諧(俳句)を芸術に高めた俳人。

17世紀の終わりごろ、経済の中心である京都・大阪などの**上方**で、豊かになった町人を担い手とする**元禄文化**が栄えた。文学では、**井原西鶴**が町人の生活や金もうけのようすをありのままにえがいた浮世草子を書き、**近松門左衛門**は義理と人情の間でなやむ人々を人形浄瑠璃の脚本にえがき、芝居小屋は多くの見物人でにぎわった。歌舞伎も、上方と江戸で人気を集めた。

松尾芭蕉は俳諧(俳句)を芸術にまで高め、東北・北陸をめぐる旅をもとに「奥の細道」を書いた。絵画では、**尾形光琳**が大和絵の伝統を生かしたはなやかな装飾画をえがいた。**菱川師宣**は町人の風俗をえがく浮世絵を始めた。浮世絵は木版画で安く大量に刷られ、町人の間に広まった。

人物	分野	おもな作品
井原西鶴	浮世草子(小説)	「日本永代蔵」
近松門左衛門	人形浄瑠璃の脚本	「曽根崎心中」
松尾芭蕉	俳諧	「奥の細道」

問いへの答え

綱吉の時代には、武力でおさえる政治から、朱子学など学問や礼儀を重んじる政治へと変わった。生類憐みの令や貨幣の質を落としたことは人々を苦しめ、綱吉の死後に新井白石が政治を改めた。文化では、上方の豊かな町人を担い手とする元禄文化が栄え、井原西鶴・近松門左衛門・松尾芭蕉や、菱川師宣・尾形光琳らが活躍した。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

